大正百周年 田野々物語

祝

急峻な山々がいく重にも重なる地形が長い間人々の往来や歴史の流れ、行政の動きをはばんできた土山郷。
厳しくも豊かな自然環境の中で助け合い、自然と共生し、資源を活かして暮らしている。

近年まで、大正・十和・西土佐の北幡三町村では深い交流があった。
青年団対抗の北幡大会や北幡美術展なども開催されていた

義倉

江戸時代、上・下の田野々村庄屋屋敷には義倉が設置されていた。
毎年、籾を上納させて、凶作の際に農民たちを救う米を貯蔵していた。

無予無罪のあたりと忠霊塔のあたり

次の100年へ！

エンコウとすもうをとった民話が多数残っている

桂原川はかって津野山川と呼ばれていた

四万十大正 鮎まつり

おめの川原

田野々トンネル

木の香る道づくり

上山郷は「上山山分（かみやまんぶん）」と呼ばれ、四方を山に囲まれ、山は険しく、谷と渡り、川をまたぐ、とても交通の便がよくなかった。
1922年、窪川～宇和島間道路が県道となり
1979年、国道381号線になる。
1990年、窪川～田野々間二車線、全面開通。

黒川トンネル
黒川を昔は黒川とよんでいた

1922年（大正11）はじめてバスが大正村を走った。
十川～田野々間 1日2往復。
「ガソリン自動車」と呼ばれていた。

栗焼酎

四万十の鮎に大正の雑貨～

石鎚神社

上山城（田野々城・土居林城）跡

河内神社

江戸時代、このラインで上田野々村・下田野々村に分割されていた。

田野々でいちばん早く咲く桜

無予無罪

民俗資料館（旧営林署）

渡場
上舟戸
下舟戸

大正橋

かみす
上頭の渡し場
あっとも重要な往還の渡し場でおかみやー般の人々で混雑した。
→上舟戸 おかみ専用 下舟戸…一般の人々「ごだいご」とした。（古橋台がみえるあたり）

西本町

長命地蔵

五松寺こども園

本町

役場

忠霊塔

根木神社

和田林跡

中町

東山

遅越城跡

吾川

下田まで筏で材木を流して運んでいた。

クリーンセンター

土佐大正駅

土佐大正

1974年3月1日 予土線 全線開通。
2014年 40周年。

大正中学校

四万十高校

森駄場

新町

駅

四万十荘

海津見神社

田野々小学校

きらら

縄文遺跡が発見されるなど早くからの地で人々が定住して生活を営んでいた。
中世（1190年代）紀州から田那部一族が移住し、田野々を中心に開発。
長曽我部氏の時代には上山郷と呼ばれる。
地検帳には「田野々村」と記され津々羅川村とトロサキ村の3小村からなるとある。
村域は上・下の田野々村の二村に分かれていた。

明治22年（1889）上山郷は分下の22ヶ村が合併し東上山村。
大正3年（1914）1月1日、大正改元を機に元号を村名として「大正村」と改称。
昭和22年（1947）町制。
平成18年（2008）四万十町となる。
「田野々」の地名は消え、「大正」となる。
これからも万古不易。
ゆっくりと変わらぬ道を歩く。

七夕神社（南町）

庶民の住居

江戸時代、タタミが極端に不足していたため、すべての家がひざしを許されなかった。
座敷に床板はなく、ホウキをすのこに編んで並べ、わらやむしろを敷いていた。
冬は寝つけない寒風が吹き、いろりに足をさし入れて寒さをしのいでいた。

竹内家住宅
約280年前の山村農家。
中津川より移築

熊野神社

田野々を守り千年の歴史を伝える熊野杉。
もとは道の下にあったが1890年に大水で流され、1914年現在地へ。
8月旧と11月12日大祭

熊野神代橋

熊野神社の鎮守の森の大木を目の前に見ることができる。
自然と一体となったすばらしい名橋。
車に気をつけて歩いてみたい。

大虫伝説

金真守の森

町中でありながら木霊を感じることができるパワースポット。
ムササビも住んでいる。

カワウソ

カワウソの足そくを心の中でひそかに願っているぼく。

町中は車も少ない。のんびり歩いて大正ロマンをみつけてみよう。

桜並木

田野々の大火

昭和23年3月6日（土）桂原川沿いにあった大正営林署修理工場から出火した。
火は、おりからの強風にあおられて、10時間にわたり炎をひろがり、田野々の町の半分を焼き尽くした。
190戸 全焼、受災者1300人。
「田野々全滅」と伝えられた。
その後、復興をとげていく。

火の用心

荒瀬

舟渡し場

葛籠川と仁井田川の合流すぐ少し下にあったが、急流、岩礁がタタく川止めもタタかった。
大正9年、那道を延長してウロタ～熊野神社を結ぶ路線で渡しを分担していた。
昭和18年 沈下橋架設により廃止となる。

渡し船から沈下橋へ
沈下橋から抜水橋へ

葛籠川

一の又温泉
市ノ又原林（根上がり大将）

車輌基地跡

大正営林署が苗木を育てるために、スギの種を採っていた精英樹の台スギ群

車輌公園

古民家 門脇家住宅

郷土資料館

GS

世界一の石の風車。大きいうが回ると雨になる。

四万十川

（仁井田川と呼ばれていた）

荷酉告だった庶民の暮らし

土佐藩では財政がひっ迫しており、農民からより多くの税をとる重税や苛役、細かな規則を強いていた。
衣類は自作の木綿か麻、フジの皮などからタタ布（たふ）を織っていた。
また、仙花紙を各家で漉いて紙の布団や衣類、蚊帳として使っていた。
食物も年貢を納めても自由にならず、芋、ヒエ、タイモなどを少量の米とまぜて食べ、カシやナラの実も食糧として備えをしのいでいた。
塩は佐賀せど口の漁師のところへ魚網を求めるヤマモモの皮などを担ぎ、交換していた。

大正駅

道の駅であいの里

四万十ヒノキ集成材工場

リバーパーク キャンプ場

交通安全観音様

村3庁へ

2014.3